

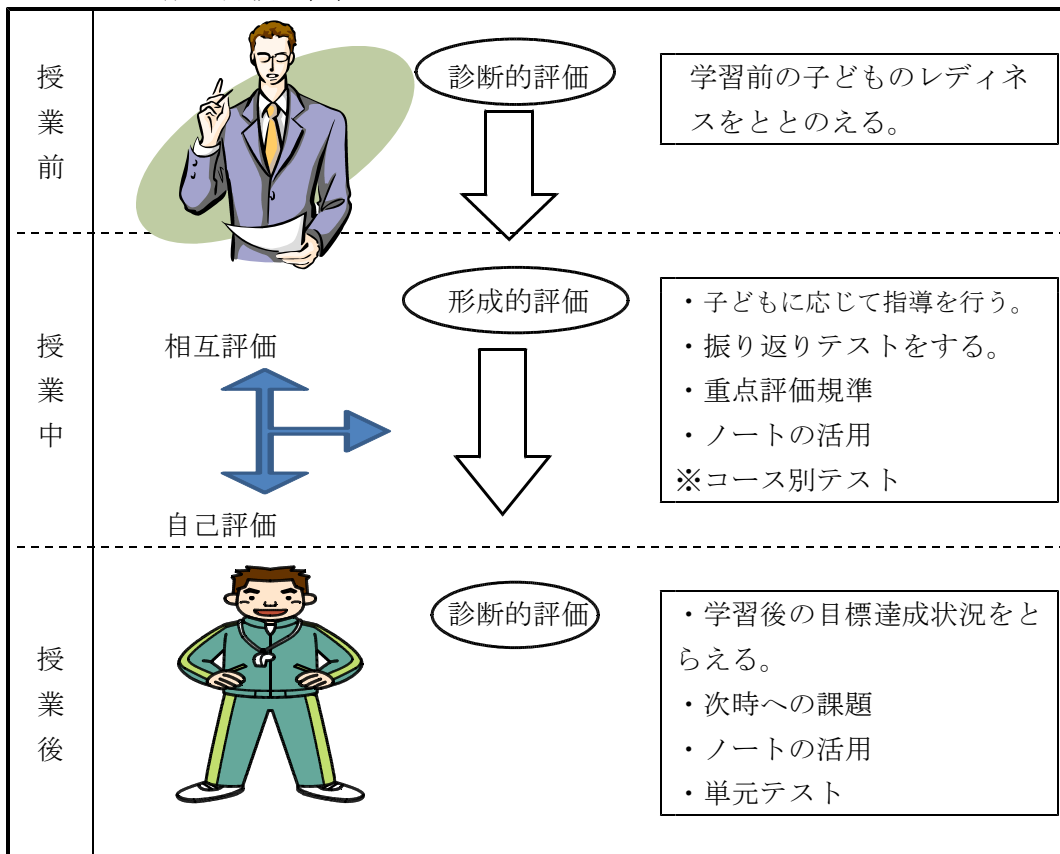
資料3 指導と評価の一体化

① 形成的評価方法の工夫

ア 重点評価規準の設定

算数科においては、題材全体を通して、4つの観点から総合的に評価していく考えが大切ではないだろうか。そのためには、それぞれ1単位時間で、4つの観点のうちの一つ、あるいは二つを重点評価事項として評価する必要がある。授業における1単位時間の観点を絞り込んだ重点評価規準が明確にされることによって、教師の指導も焦点化されると考える。

イ 形成的評価の位置づけ



② 自己評価の工夫

自己評価とは、子どもが自分自身の活動のすべてを振り返り、自分を反省・改善したり、次への計画を立てたりするものである。学習前と学習後の自分を対比して、子ども自身が自らの学習の過程、成果、新しい課題などを確認できるよさをもっている。

つまり、自分の学びを振り返り、高まった自分を知り、「わかる・できる」喜びや楽しさを実感しながら、確かな学力を身に付けることができるのが自己評価である。

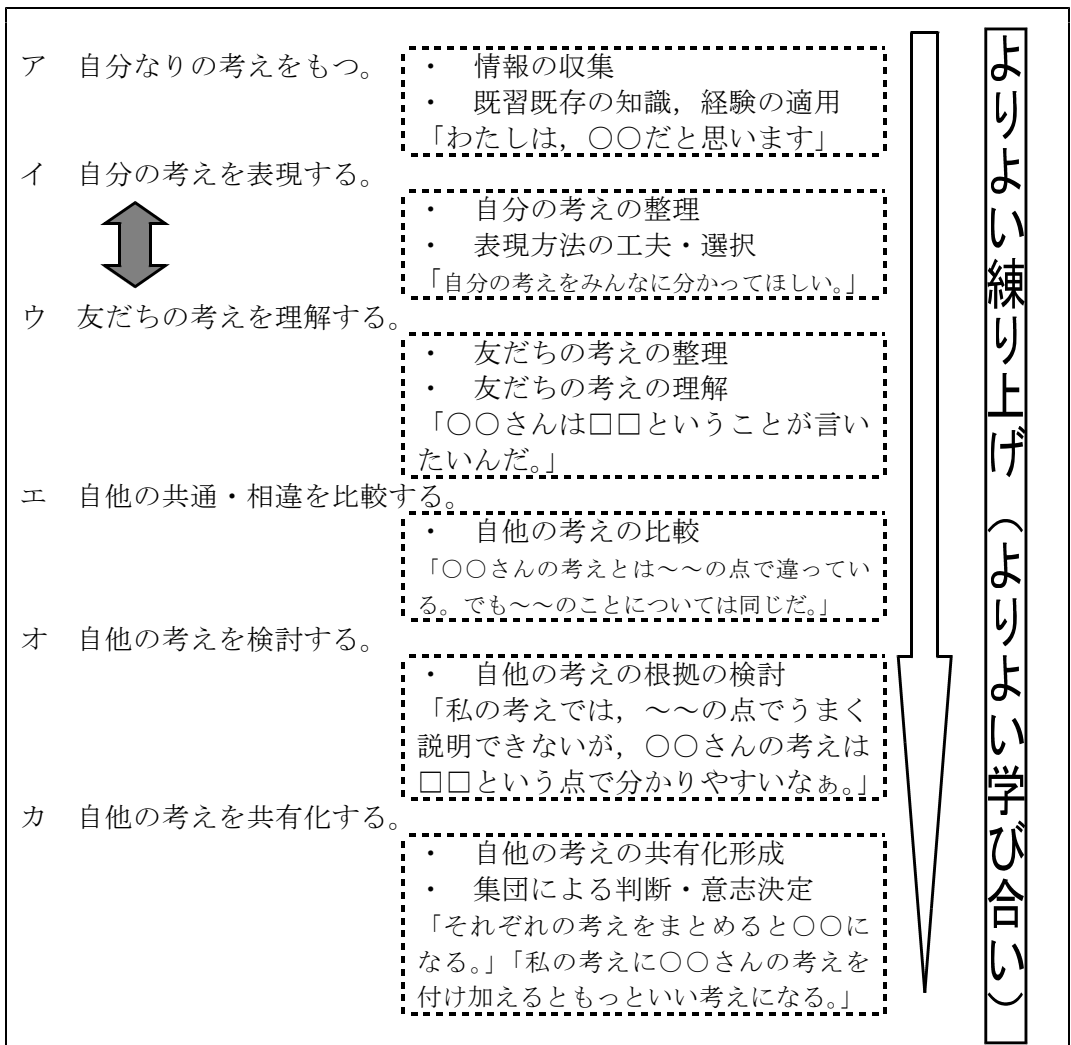
資料4 「練り上げの場」(よりよい学び合いを通した)の位置づけ

① 「練り上げの場(よりよい学び合い)」の概念

子どもたちは学校や教室で、多くの友だちと場を共有しながら学習を行っている。そこで、友だちと会話したり、共同で活動を行ったりしながら、多くの知識や技能を身に付けていくことになる。そしてその過程において子どもたち同士の練り上げ(学び合い)が成立していく。しかしながら現状はただ学習の場を共有するだけで、本来の「練り上げ(学び合い)」がもつ多様な学習効果を十分に生かすことができていない。そこで、学習の場で子どもたちの「練り上げ(学び合い)」を効果的で意義あるものへと高めるために「よりよい練り上げ(よりよい学び合い)」の概念を宮川小学校なりに次のようにとらえてはどうでしょうか。

「よりよい練り上げ(よりよい学び合い)」とは、まず、子どもたちが、自分の考えをしっかりと持ちその考えを自分なりに表現する。次に、お互いの考えを理解し合い、認め・尊重し合いながら交流(比較・検討等)する。そうする中で、確かな知識を習得し、理解を深め、個々の思考を深化・拡大(共有化)していくことである。



② 「よりよい練り上げ(よりよい学び合い)」の基本過程



資料5 学習意欲をもたせ高めるための学習問題設定の工夫

- ① 授業が子ども主体の学習になれば、子どもたち自身が学ぶ喜びや楽しさを味わうことができると考える。そのためには、子ども自身が解決したい「問題意識」を1単位時間の中でもたせなければならない。そこで、最初の問題「学習課題」の受け止めが重要になる。授業の導入で出会った課題から、「なぜだろう?」「どうしたらいいのだろうか?」「もっと簡単に正確にできないかな～」などの問題意識をもたせるようにする。その中から、学級全体で取り組むべきめあて(学習問題)を設定していくことで、めあての解決に向けて子どもたちが意欲的に取り組むことにつながると考える。

【自分なりの「問題意識」をもつためには?】

問題 (学習課題) の受け止め		めあて (学習問題) の設定	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまでの学習と違う。</li> <li>・ これまでの方法が使えない。</li> <li>・ 何かきまりがありそう。</li> <li>・ 答えは分かるけど簡単にできないかな～。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ○○の時はどのようにしたらいいのだろうか?</li> <li>・ どんなときでもこのきまりはつかえるのだろうか?</li> <li>・ もっと簡単にする方法はないか?</li> </ul>

② めあてを設定するための観点(例)

観 点	子どもがもつ問題意識	めあて(学習問題例)
① 課題を見て、既習内容と比較をもとに立てる。	前に学習したことと、ここが違うなあ～。	○○の時は、どのようにすればいいのだろうか。
② 試行した結果、見出した規則をもとに立てる。	こんなきまりがありそうだ。	みつけたきまりは、本当にそうなのだろうか。
③ 既習内容を生かして、試行したができなかったことをもとに立てる。	この考えでできると思ったけどできななあ～。	○○でできないときは、どうすればいいだろうか。
④ 試行した結果、明確にできなかったことをもとに立てる。	みんな違うなあ～。はっきりしないなあ～。	○○がはっきりするには、どうすればいいだろうか。
⑤ 簡単な解決方法を追求するために立てる。	出来たけど、もっと簡単にできないかなあ～。	もっと簡単にするにはどうすればいいだろうか。
⑥ 対象を変えて、同じ活動に取り組みたいという意識をもとに立てる。	今の学習で学んだことを、他でもやってみたいなあ～。	○○でやったら、どうなるのだろうか。